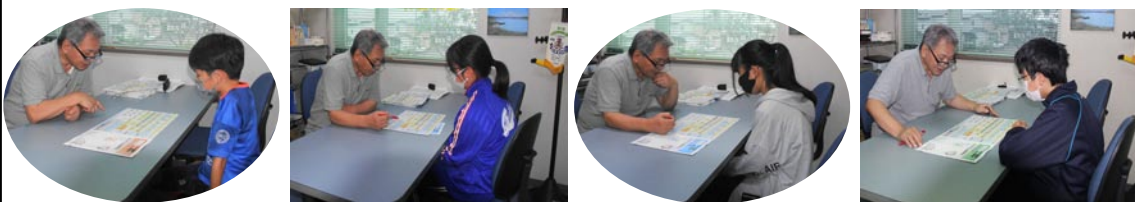


連日30℃近い暑さの中での夏期講座（上） 8/10、11の道コンの様子（下）



8/12 夏期講座最終日 道コンの見直し（上・下）



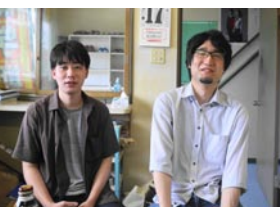
道コンの結果をもとに面談しました



8月も差し入れありがとうございました



27期生の村上君、今年高専を卒業し豊橋技術科学大学に進学しました。新しい環境で頑張っています！



18期生の新田君（慶應）と渡邊君（釧路高専）の二人。久々に一緒に来てくれました。彼らは今年30歳、早いですね！

**9月は定期テストです！**  
異常な暑さの8月が終わり、9月に入っても蒸し暑い日が続いています。今月は中学校、高校とも定期テストがあります。夏休み中の勉強の成果とテスト範囲の勉強の成果を発揮し、少しでも内申点のアップに繋がるように頑張りたいです。  
また中3生は学力A・B・CテストのAテストが13日に学力あり。学力A・B・Cが終ると三者面談があります。  
焦る必要はありません。入試までは6ヶ月もありませんから志望校に向けてコツコツ積み上げることで、受験に向かっては苦手を教科、苦手な単元を中心に効率よく勉強するように心がけましょう。  
1年生も2年生も面談で話したように今の時点での課題となっている部分を意識し、真剣に取り組みましょう。デジタル社会・AI社会に対応するため基礎学力はとても重要です！

**教育において「ChatGPT」はどんな可能性を持つのか**  
AIの「チャットGPT」がリリースされて、間もなく半年になるとうとしています。その衝撃は大きく、その付き合い方について各界、各分野で手探り状態が続いています。子育て、教育の世界も例外ではなく、保護者・学校、教育業界が模索中といったところです。そこで、私も小学校教員と教育評論家の経験を踏まえて、現時点においての私見を述べてみたいと思います。チャットGPTに代表される生成系AIは、Googleに代表されるネット検索が既にそうであるように、生活でも仕事でも必需品になるでしょう。でも、こうした未知のデバイスやサービスが登場したとき、大人はとくに子どもから遠ざけたくありません。これはスマホ・タブレット・ライン・ユーザーなどの登場時を思い起こせばわかります。

子どもの利用には大人の適切な理解が必要です。でも、それでも子どもは必ず使いますし、既にもう使っています。遠ざけたいという気持ちもわからない話です。「使わない」と言っているだけだ、子どもの大人に隠れて使うようになり、大人はメリットよりもデメリットが多くなってしまう可能性があります。ですから、子どもが適切かつ上手に使えるように大人がしっかりと関わっていく必要があります。「どう使えばいいか？」「どう使うべきか？」「どう使うべきか？」などについて、大人もまだよくわかっていないわけで、子どもたちと一緒に考えながら進めていく必要があります。

「わからないことをすぐチャットGPTに聞いたり、作文やレポートを書くのに使ったりしていると思考力が育たなくなる」という人もいます。でも、私はそうとは限らないと思います。先述したように、出てきたものをもとにして、その上に新しいものやオリジナルなものを作っていくようにすればいいわけです。ネット検索が出始めた頃も、「検索に頼っていると調べ力や思考力が衰える。図書館で調べよ。百科事典で調べよ。自分の頭で考えよ。検索は禁止だ」と言う人はいました。でも、今そんなことを言う人はいません。生成系AIがネット検索の異次元のバージョンアップ版だとすれば、同じようなことになるはずだと思います。

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
土	金	木	水	火	月	日	日	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金
						休塾	秋分の日 休塾					敬老の日 休塾	休塾				★学力Aテスト(中3) t			休塾				富原定期・青陵定期(17)	景雲・別保定期(16) 湖陵定期(18)		休塾		

大きな声であいさつを！

過保護・過干渉は子供をダメに！

9月の予定

なぜなら、そういう場合は、主体的な問題意識を持ってAIと対話しながら掘り下げていけるからです。

このような使い方をすれば、思考力や追究力が育たないどころかより一段と高まるはずで、ですから、これからは知識の量を増やすことよりも、自分でやりたい目標や課題を見つけて追究していく力が重要になります。次に、生成系AIが学校の授業や子どもの学習にもたらす変化を想像してみます。

### 生成系AIが生活や仕事、教育を大きく変える

落ちこぼしも吹きこぼしもなくなります。学習指導要領で何年生はどこからどこまで学ぶなどという縛りをかけるのも時代遅れになります。すると、学年や学級概念も不要になるかもしれません。学校のあり方や存在意義についての議論も必要になるでしょう。入学試験のあり方も変わりますし、学歴偏重も見直されるでしょう。

現在、学校における各教科の授業は大人数の一斉授業が普通です。例えば算数の授業でも、問題の解決方法を子ども同士で話し合ったりしていますが、ついていけない多くの子どもたちはわからないまま長時間座ってなければなりません。これは既にわかっている子にとっても退屈な時間です。AIによる個別最適化学習が実現すれば、こうしたこともなくなるでしょう。

子ども同士の話し合いは、「ごんぎつねの感想を話し合う」「学級の諸課題やイベントの計画について相談する」「貧困や環境などの社会的なテーマについて議論する」などについて行えばいいと思います。各教科の勉強でも、子ども同士の話し合いに意味がある場合は行えばいいと思いますが、そうしたことは少なくなるでしょう。

以上のように、生成系AIは生活や仕事だけでなく教育も大きく変えると思います。これをうまく使うことができるか否かで、生活・仕事・教育において圧倒的な差が出てくるはずで、

親野智可等 教育評論家  
東洋経済 ONLINE2023/04/22

## 「生徒」でなく「学生」 大卒レベルの即戦力「高専」を訪ねた



つくった模型を見せながら徳岡浩二さん（右端）に説明する。わかりやすく話すことも勉強だ＝兵庫県明石市の明石高専で2023年4月27日 三角真理撮影

ロボットコンテストなどで名前をよく見るし、就職率も高いそう。今さらながらだが、高等専門学校、「高専」を知りたいと思った。専門分野を学んでいることまではイメージできるが、授業はどんな様子なのか。全国に国立高専は51校。そのうちの1校、明石工業高等専門学校（兵庫県明石市）を訪ねた。【三角真理】

国立高専の誕生のきっかけは1950年代後半、産業界からの要望だった。経済成長が目覚ましいところで、「技術の進歩に対応できる人材を育ててほしい」という声が強まった。こうした背景から、即戦力として活躍できる技術者を育てることを目的に、62年に全国に12校が開校した。

高専は中学を卒業した人が対象。5年制で、卒業後は高専の専攻科（2年制）への進学のほか、大学へ編入学の道もある。



「ここ工夫したんだけどどう思う？」＝兵庫県明石市で2023年4月27日 三角真理撮影

高専に通う若者は「生徒」ではなく「学生」と呼ばれる。主体性を重視しているからだという。なるほど広辞苑を引くと、「生徒」は「教育を受ける者」、「学生」は「学業を修めるもの」などとある。

取材で訪ねた明石高専は機械工学、電気情報工学など4学科あり、1学年各学科40人。学生の約7割が兵庫県内出身で、約3割が全国各地から。

通にくい人のために寮（定員259人）もある。卒業後は進学が7割。3割が専門性を生かした企業への就職などだ。

先生は教授、准教授 まるで「大学」

授業は1コマ90分。先生は教授、准教授などの肩書がある。どこをとっても「大学」に近い感じだ。部活はロボット工学研究部など各種あり、3年までは高校の大会に出場し、4、5年になると大学の大会に出場している。これ以外に高専の大会もある。

説明が長くなったが、いよいよ授業へ――。

この日建築学科3年が取り組んでいたテーマは「JR西明石駅近くに子ども図書館をつくることになったと仮定し、その設計の委託を受けたとする。どのような図書館をつくるか、模型をつくって考える」。3週間前から取り組んでおり、この日はつくった模型を非常勤講師の徳岡浩二さん（61）にみてもらう。徳岡さんは吹田市立健都ライブラリー（大阪府）、ちえの森ちづ図書館（鳥取県）などの設計を手がけた1級建築士だ。「第一線で活躍するプロの話は実践に役立つ」と同学科の本塚智貴准教授は教室の脇で見守る。



制服はない。「大学」に近い感じがした＝兵庫県明石市で2023年4月27日 三角真理撮影

学生は、自分がつくった模型を手にしなが工夫した点などを説明。それを聞いた徳岡さんが学生に質問や助言をする。

たとえば、自分の考えた建物を説明した女子学生に、徳岡さんは建物ではなく駐輪場について質問した。「駐輪場はここに設置するのかな？でもこの位置は駅から来た人には見えないからきっと多くの人は入り口付近に好き勝手にとめちゃう。自転車であふれかえるね」。女子学生は「そっかあ」という表情。見落としていた視点だったようだ。

2棟の建物を配置する案を説明した男子学生には「狙いは分かったけれど、この2棟をどうつなげる？廊下でつなぐか、それともつなげないのか」。模型にはその様子が表現されていなかった。

別の男子学生は「トイレをどこに置いたらよいか迷っています」と相談。徳岡さんは「図書館で子どもがトイレに行きたいときは、ギリギリまで我慢して最後にとんでいく。それに間に合うように近いところを考えなあかんね。大人は“音”が気になるから、読書空間に響かないように離れたところ、と考える」。

授業の最後に徳岡さんは「友達の模型を見ると『上手やなあ』と思いますよね。でも人のまねはしないように。最初に浮かんだ、自分の思いが入った作品には個性がある。その個性を大事にしてほしい」と話した。

### 「早くから専門的に学びたい」と進学

学生たちに高専に進学した理由などを聞いた。中川紗那さんは「神戸の異人館や建築系のテレビ番組が好きで、建築を詳しく勉強したいと高専を選んだ。自由な校風にもひかれた」と話し、「5年間同じメンバーで勉強できるのも楽しい」と満足そうだった。竹市安里さんは小学校のころから転校を多く経験してきて「いろんな学校や家を見てきて『この違いはなんだろう』と考えるようになり、建築に興味を持った」。高専を選んだのは「早くから専門的に建築を学びたいと思ったことと、自由な雰囲気がいいと思ったから」と話した。

愛媛県四国中央市出身で寮生活を送る長野晏大（はると）さんは「姉が高専に通っていて、専門の先生が教えてくれることや就職しやすいことを聞いて、選んだ」と話す。「目標が同じ人たちと一緒に刺激になる」といい、将来は建築家を目指している。

今回、学生たちはJR西明石駅近くに行って、周辺にどんなものがあるかや日差しの向きなどの調査をした。模型の素材は自由なので、紙や段ボールなど自分で考えた。行動力が求められていると感じた。

同校の梶村好宏副校長は「高専で5年間学んだ学生たちは、大学卒レベルの即戦力となる」と語る。

毎日新聞 2023/8/6

**社会は良くも悪くもデジタル化や生成AIの登場によって劇的に進化します。今ある文系の仕事のほとんどはコンピュータに取って代わられると言われていて、しかしそれらには物を生産する能力はありません。**

**勿論、気合も根性もありません！高専は大きな選択肢です！**

**AIの出来ない技術系の仕事や人と関わる仕事を目指しましょう。**